

「大学キャンパスを中心とする都心再生構想に関する調査研究」(その1)

—早稲田ユニバーサル・キャンパス構想—

都心 大学 キャンパス まちづくり

正会員	増田幸宏※1
同	山田和義※2
同	高橋信之※3
名誉会員	尾島俊雄※4

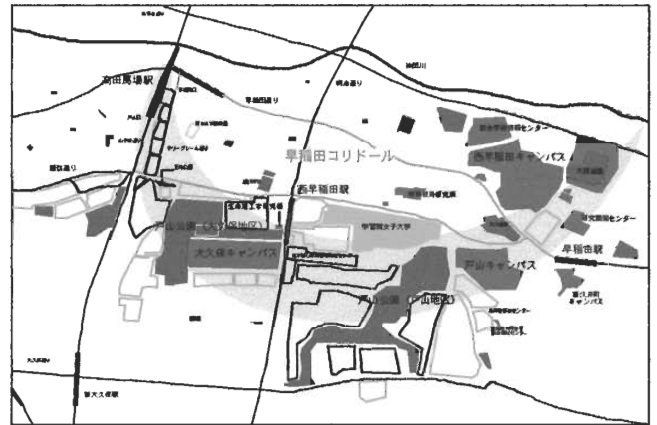
1 はじめに

本報告では、早稲田大学理工学部(東京都新宿区)より昨年秋に発表された大学周辺地域のまちづくり構想案の紹介を通じて、特に、まちづくりの中心を担う新たな主体としての都心における大学の持つ可能性について着目し、その考察を行う。

2 「早稲田ユニバーサル・キャンパス構想」

2001年秋、早稲田大学理工学部より、「早稲田ユニバーサル・キャンパス構想」と称する、早稲田大学のキャンパスとキャンパス周辺地域との共生を目指した環境整備を中心とする都心再生のための構想が発表された。早稲田大学は、その校歌にもうたわれているように「都の西北」に位置する大学である。この構想案は、その東京の西北地域においても、東京の西南部における明治神宮、神宮外苑、表参道に匹敵するような連続する緑のエリアをつくりだそうというものである。例えば、アメリカのボストンにおいて、ハーバード大学とMIT(マサチューセッツ工科大学)がチャールズ川と周辺の緑によって素晴らしい関係を築いているように、点在する早稲田大学のキャンパス群を緑と広場という自然資源で連結することを目指して、周辺の公共機関や公園、住宅群とキャンパスを有機的に結び付ける、というのが早稲田ユニバーサル・キャンパス構想の骨子となっている。

具体的な提案としては、以下に示すような4つの考え方で対象となるエリアを捉え、高田馬場から西早稲田にかけて、いくつかの具体的なプロジェクトが提案されている。



■ 「早稲田ユニバーサル・キャンパス構想」

「早稲田コリドール」による早稲田文化圏の形成
／キャンパス周辺の資産を生かし、周辺地域と一体となったキャンパス環境整備計画

1. 早稲田門前町／早稲田大学への玄関口としての空間整備(高田馬場駅、早稲田駅、西早稲田駅、新大久保駅)
2. 早稲田大久保の杜、早稲田戸山の杜／早稲田大学キャンパス群と戸山公園の融和
3. 門と塀のないキャンパス／大学を中心とした一体感のある新たなコミュニティエリアの形成
4. 戸山グリーンベルト／大久保地区と西早稲田地区との連繫軸となる市民のための公園緑道

この構想案は、早稲田大学が標榜してきた「門と塀のないキャンパス」という考え方を引き継ぎ、「キャンパスとキャンパス周辺の公共空間との相互融合をはかる」ことを基本的な方針としている。早稲田大学理工学部のキャンパスを周辺に開放し、周辺の公共空間を早稲田大学のキャンパスとして取り込むことで互いのポテンシャルを供与し合い、地域が一体となってそ

の向上を目指すという考え方である。即ち、大学と大学の持つキャンパス周辺の資産を生かし、周辺地域と一体となったキャンパスの環境整備計画を視座にしているのが大きな特徴である。

3 まちづくりの中心を担う新たな主体としての都心の大学

上記の構想案は、都心における大学キャンパスを都市における重要なストックと捉えることにより、都心における大学キャンパスという既存のストックを、如何に生かしていくべきかを考えている。そして今後の都市環境の再構築を展開していく都心再生への新しい観点を示唆しようとするものである。

現在、まちづくりの中心を担う新たな主体として、都心に立地する大学の持つ可能性について着目し、大学キャンパスが中心となって果たしうる役割とその手法について調査研究を行っている。「早稲田ユニバーサル・キャンパス構想」における、早稲田大学界限を中心とするケーススタディーは特に以下の様な特徴を有しており、今後一層の展開が期待できるものである。

1. 早稲田大学は、「門と塀のないキャンパス」という姿勢のもと、歴史的にも地域との深い関わりの中で発展してきた大学である。地域の大学が、周辺の多様な主体との密接な対話を繰り返し、周辺地域の動きと有機的に連動することにより初めて地域に散在する諸要素が繋がり、新たな価値が形成されることになる。「早稲田ユニバーサル・キャンパス構想」が、ある一定規模の地域を対象としているからこそ、その価値の実現が可能になる。
2. 早稲田大学は都心に立地しある一定の広さの敷地を有している。また、一定の規模の人口を抱え、キャンパスを拠点としてある規模の様々な活動が行われている。

3. キャンパスが今後他の地へ移転することは考えられず、この地域におけるキャンパスとしての土地利用形態がこれから先も長い間継続すると考えられる。

地元に着し、地元の独自性を出しながら、中長期的な時間をかけてまちづくりへ取り組むことが可能になる。

4. 大学は都心における学術・芸術・技術の拠点であり、文化と情報の発信基地である。

5. 早稲田大学は、建築やまちづくり等の専門家を抱える機関である。大学における専門家や研究者が実際のフィールドで、ある役割を果たすことができる。

また、まちづくりを進める上で直面する諸問題に対して、法律、経済、社会学、といった大学内の様々な分野の専門家・研究者と横断的な連携をとりながら解決をはかることが可能になる。

6. まちづくりの過程を通じて、教育（人材の育成と供給）と連携をとることが可能である。

7. 行政の立場でも資本に基づいた企業の立場でもなく、地域の大学としてまちづくりに関わる事が可能である。地域の環境整備を担う主体として、その責任とインセンティブが明確である。まちづくりは、多様な主体によって担われるべきものである。官（行政）が主導するもの、民間の企業が主導するもの、草の根型のまちづくり等いずれも重要である。大学は、様々な形のまちづくりに、様々なアプローチ、立場で関わることが可能である。

※1 早稲田大学大学院理工学研究科・修士課程
※2 早稲田大学大学院理工学研究科・修士課程
※3 早稲田大学理工学総合研究センター教授・工博
※4 早稲田大学理工学部建築学科教授・工博

Science and Engineering Dept., Graduate School, Waseda Univ.
Science and Engineering Dept., Graduate School, Waseda Univ.
Prof., Advanced Research Center, Waseda Univ. Dr. Eng.
Prof., Science and Engineering Dept., Waseda Univ. Dr. Eng.